ソーシャルデザイン推進会議

発足式

2014.5/17(土)

14:30～17:30

政策研究大学院大学

想海樓ホール

ソーシャルデザイン推進会議

拡大発起人会

ソーシャルデザインとは、

いま、日本の各地で、自治体首長をはじめ地域を愛する多くの方々の尽力により、様々な地域おこし、コミュニティーづくり、新たな社会システムの構築に向けての活動が行われています。行政のみでなく、地域社会の多様な人たちがつながり、これまでのやり方にとらわれない自由な発想で、社会を良くするこれらの活動を創り出す。その活動のデザインを、私たちは「ソーシャルデザイン」と呼んでいます。

ソーシャルデザイン推進会議とは、

『ソーシャルデザイン推進会議』は、全国の「ソーシャルデザイン」に光を当て、自治体首長の連携により更なる普及発展を推進する組織体です。
『地域から日本を変える・新しい日本を創る』という思いを共有する全国の首長が中核となり、情報とアイデアを交換し、連携し、広く社会に情報を発信し展開していくためのホームベースであり、自治体首長を中核としつつも、全国・地域のさまざまな方々と連携する、開かれた関係性の中で情報発信とイノベーションの創造を目指す、運動論的・参加巻き込み型の会議体です。
市町村長が主役でありつつ、全国の地域のさまざまな人たちの活動の実績、知恵とノウハウを交流・発信し、全国の多様な実践者・専門家の交流によるイノベーション創造を目指します。
日本の各地で、より多くの方々が「ソーシャルデザイン」を知り、応援し、自らが担うようになることを支援すること、そして多様な人たちの連携を支援することを通して、新しい日本の姿を地域からつくっていくことが私たちの願いです。
「ソーシャルデザイン」は、地域に始まり、地域から日本を変えていく、これからの日本を作るための力であり希望であると私たちは考えています。

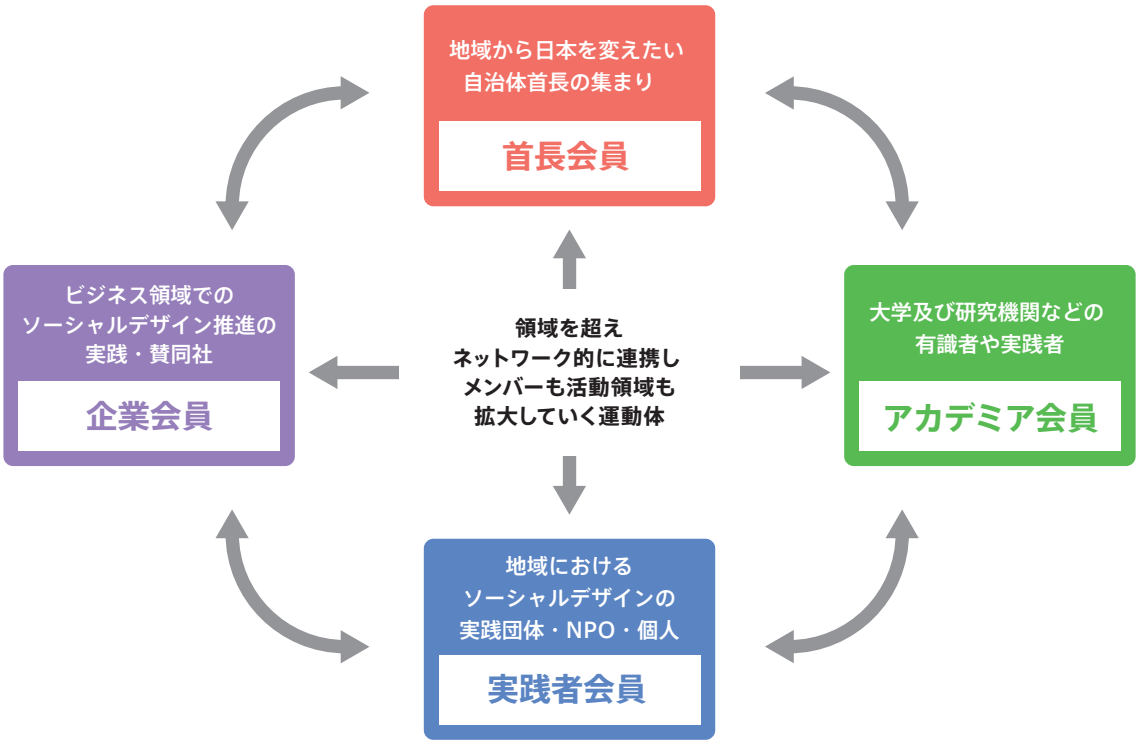
ソーシャルデザイン推進会議　拡大発起人会

拡大発起人会（2014年4月23日現在）

共同座長	浦安市長 松崎秀樹	見附市長 久住時男	松阪市長 山中光茂	
発起人 （準備会合出席者）	ニセコ町長 片山健也	大潟村長 高橋浩人	小国町長 盛田信明	下妻市長 稲葉本治
	つくば市長 市原健一	館山市長 金丸謙一	睦沢町長 市原武	多摩市長 阿部裕行
	須坂市長 三木正夫	阪南市長 福山敏博	加西市長 西村和平	日置市長 宮路高光
事務局	事務局長 丸尾哲也	木下博信	石川治江	中橋徹也
	駒田健太郎	村越力	西原淳子	

「ソーシャルデザイン推進会議」構成メンバーの考え方

地域経営の責任者である自治体首長の会としますが、首長の皆様に加えて、多様な専門家・実践者・企業家等が集まり日本の地域社会を議論し学び合う、地域版の「ダボス会議」を目指します。



参加者条件

- 趣旨に賛同いただける方
- ソーシャルデザインに寄与する活動に関与されている方
- 経験に裏付けられた見識を持つ方
- 実践で培った知見を共有してくださる心の広い方
- 周囲のモチベーションを高める伝播力をお持ちの方
- 組織や自分の宣伝、ロビー活動を目的としない方
- スピーディーでカジュアルな運営にご協力いただける方

賛同首長

ニセコ町長
片山健也

鷹栖町長
谷寿男

東川町長
松岡市郎

金ヶ崎町長
髙橋由一

村田町長
佐藤英雄

加美町長
猪股洋文

横手市長
高橋大

大潟村長
高橋浩人

小国町長
盛田信明

伊達市長
仁志田昇司

下妻市長
稲葉本治

つくば市長
市原健一

つくばみらい市長
片庭正雄

栃木市長
鈴木俊美

大田原市長
津久井富雄

芳賀町長
豊田征夫

川越市長
川合善明

所沢市長
藤本正人

北本市長
石津賢治

館山市長
金丸謙一

東金市長
志賀直温

浦安市長
松崎秀樹

香取市長
宇井成一

大網白里市長
金坂昌典

酒々井町長
小坂泰久

一宮町長
玉川孫一郎

睦沢町長
市原武

中野区長
田中大輔

多摩市長
阿部裕行

鎌倉市長
松尾崇

新潟市長
篠田昭

見附市長
久住時男

燕市長
鈴木力

糸魚川市長
米田徹

妙高市長
入村明

富山市長
森雅志

勝山市長
山岸正裕

須坂市長
三木正夫

川上村長
藤原忠彦

岐阜市長
細江茂光

三島市長
豊岡武士

牧之原市長
西原茂樹

松阪市長
山中光茂

いなべ市長
日沖靖

八幡市長
堀口文昭

京丹後市長
中山泰

高石市長
阪口伸六

阪南市長
福山敏博

島本町長
川口裕

豊岡市長
中貝宗治

川西市長
大塩民生

加西市長
西村和平

葛城市長
山下和弥

有田市長
望月良男

多久市長
横尾俊彦

日南市長
﨑田恭平

日置市長
宮路高光

今後の活動予定

本年 11 月に予定されている中間連絡会議において、今後の事業やその運営体制について話し合いが行われます。下記事業及び運営案は現段階で検討されている案となります。

1 研究開発事業

広く趣旨に賛同する方々の研究と
事業開発の場にします。

2 ソーシャルデザインアワード事業

先駆的、模範的事例を発掘し、
次なる革新に向けて参考にします。

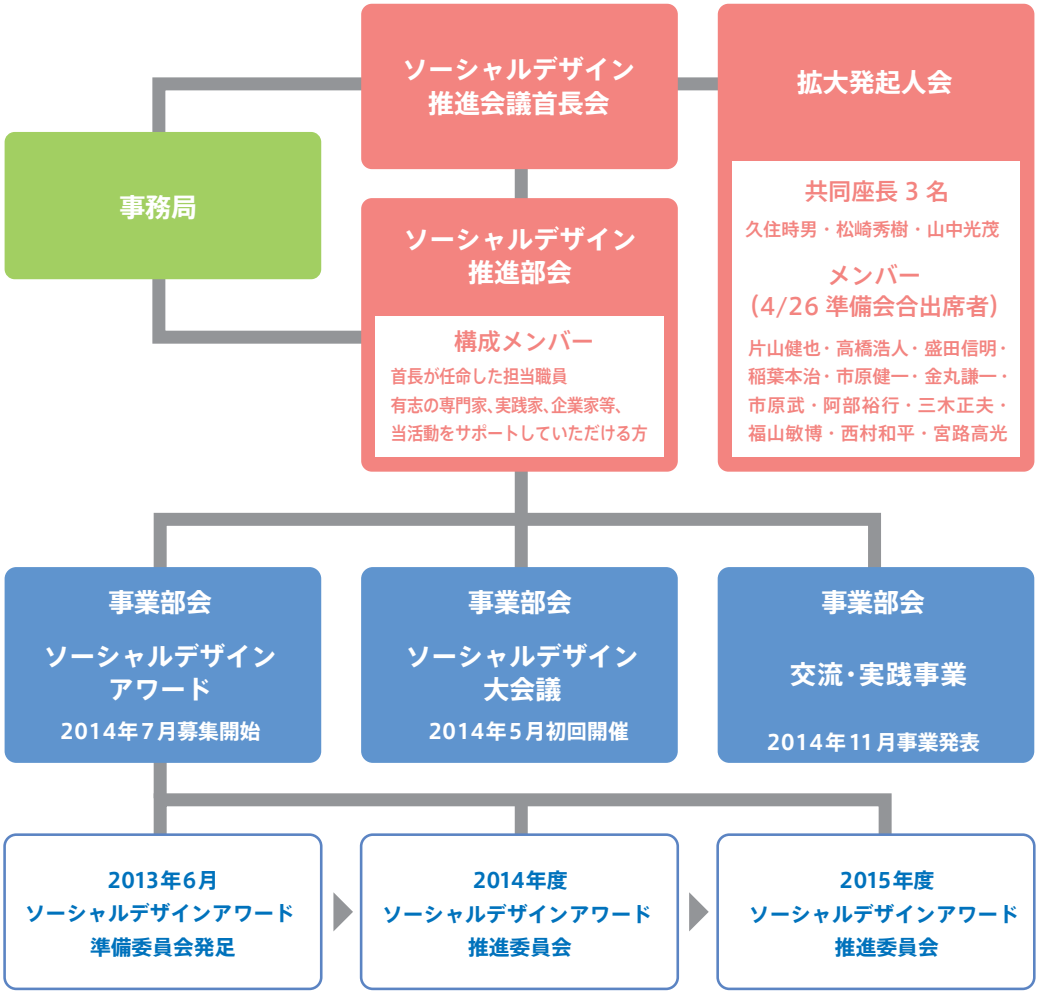
3 交流・実践事業

日本全国のソーシャルデザインに寄与する
良い活動の実践者が集まって、その方々の知恵
とノウハウを交流させる機会を提供します。

4 その他

将来的には、教育や人材の交流、
被災地支援等の活動を進めます。

「ソーシャルデザイン推進会議」運営案



基調講演

神山町『創造的過疎』の地域づくり
～ソーシャルデザインの先進事例として～

地域経営

大南信也（おおみなみ しんや）
NPO法人グリーンバレー理事長

1953年徳島県神山町生まれ。米国スタンフォード大学院修了。過疎地域が生き残るための解決策を見いだそうと、90年代よりアートや環境を柱に世界と地域をつなぎ、グローバルな視点での地域活性化を図る。ワークインレジデンスによる若者や新規起業者の移住、ITベンチャー企業のサテライトオフィス誘致による新規雇用の創出など、多様で多彩なクリエイティブ人材の英知を集めることによって各種地域課題の解決を進めている。

ソーシャルデザイン大会議 Part 1
実践者の皆様によるパネルディスカッション

多様な領域のソーシャルデザインの実践者の皆様にお集まり頂き、普段のご活動で得られた貴重な経験をもとに、今後のソーシャルデザインの推進に向けた多様な視点、成功例や失敗例の知見、取組むべき課題、先進的な取り組みなどをお伝え頂き、今後のソーシャルデザイン推進会議の活動のヒントをいただきます。

地域金融

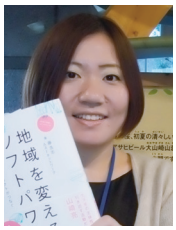
髙橋 一朗（たかはし いちろう）
西武信用金庫 常勤理事 業務推進企画部長

中野区デジタルコンテンツビジネスプランコンテスト審査員、経済産業省中心商店街区域再生研究会・ファイナンス分科会委員も務める。大学・商工会・商工会議所などとの連携を通じた地域産業支援、インキュベーションオフィスの設立による創業支援、コミュニティビジネスを活用した地域経済の活性化にも取り組んでいる。2010年より環境省「持続可能な社会の形成に向けた金融行動原則」起草委員会委員、2012年より文部科学省地域科学技術施策推進委員会委員に就任。2013年より内閣府共助社会づくり懇談会委員就任。

地域医療ビジネス

田上 佑輔（たのうえ ゆうすけ）
株式会社「Good Medicine Japan」(GMJ)「プロジェクトやまと」やまと在宅診療所登米院長

医療クリエーター。東京大学医学部卒業、腫瘍外科医として千葉県旭中央病院で研修 。2010年東京大学医学部博士過程外科学専攻。腫瘍学臨床と研究に携わる中、医療で日本を良くするチームを結成：Good Medicine Japan（GMJ）。3.11東日本大震災ではGMJ（頑張れ！宮城実行隊）として被災地で応援祭ボランティアを開催。その後2013年より東京板橋区と宮城県登米市にてやまと在宅診療所を開業し、在宅医療、地域医療コミュニティー作りに従事する。



企業CSR活動（メセナ）

根本 ささ奈（ねもと ささな）
アサヒビール株式会社 経営企画本部 社会環境部

1999年、アサヒビール（株）入社。大阪支社での営業職を経て、2002年9月より現職。アサヒ・アート・フェスティバル、すみだ川アートプロジェクト、アサヒ・アートスクエア、ロビーコンサートなど、メセナ活動全般を担当。自主事業の企画制作のほか、舞台芸術・美術・音楽などの現場を広くまわったり、全国各地のアートプロジェクトに出かけたり。いろいろな人とコミュニケーションを深めては、直接みてきいて感じることの大切さを痛感する日々。

観光NPO

野上 泰生（のがみ やすお）
特定非営利活動法人ハットウ・オンパク 運営室長

昭和40年別府市生まれ、早稲田大学卒業後、商社勤務を経て、実家の旅館・野上本館を継ぐ。平成10年より地域づくり活動を始め、平成13年に「オンパク」（別府八湯温泉泊覧会）を開始。「オンパク」は、新しい観光モデルの創出等地域活性化の手法として注目され、国内外40以上の地域で実践されている。
（社）ジャパン・オンパク 事務局長、平成23年より別府市議会議員

共創社会
促進事業

渡辺 ゆうか（わたなべ ゆうか）
FabLab Kamakura, LLC 代表　慶応義塾大学SFC研究所訪問研究員

多摩美術大学環境デザイン学科卒業後、都市計画、デザイン事務所を経て、
2010年ファブラボジャパンに参加。2011年5月東アジア初のファブラボを田中浩也氏と設立し、
2012年にFabLabKamakura,LLC を立ち上げ代表をつとめる。21世紀型の共創社会の構築に向け、
分野や国境を横断した活動を展開している。

ソーシャルデザイン大会議 Part2

行政の皆様が実践されている活動のご紹介

自治体は、現在と未来の、地域のソーシャルデザイン推進において極めて重要な役割を担うと共に、地域の現場の情報が集まっている場でもあります。自治体の運営者のお立場から見た、地域のソーシャルデザイン推進に向けた課題や可能性、自治体の参画の可能性などから、今後のソーシャルデザイン推進会議の活動のヒントをいただきます。

自治体

碇川 豊（いかりがわ ゆたか）
大槌町長

昭和26年3月20日生まれ。父親が小学校5年生の時に他界。父が残した映画館と移動製材業を手伝い、生計を助ける。土木工事のアルバイトで学費を稼ぎながら高校を卒業。昭和44年大槌町役場に入庁。総務課長などを経て平成22年退職。平成23年の東日本大震災後の2011年8月末より大槌町長就任。好きな言葉は「一つひとつのことを疎かにしない」。浜っ子で性格は「せっかち」。したがって「気は長く、腹は立てず、心は丸く」「思いやり」が人生の杖言葉。

自治体

角田 陽介（つのだ ようすけ）
大船渡市副市長

昭和48年生まれ（40歳）広島市出身。平成8年建設省入省。国土交通省九州地方整備局建政部都市・住宅整備課長、国土計画局大都市圏計画課長補佐、都市・地域整備局まちづくり推進課都市総合事業推進室課長補佐、都市局街路交通施設課整備室課長補佐等を経て、平成24年4月より大船渡市副市長。東日本大震災直後の平成23年度は、宮城県亘理町・山元町を中心に、被災地自治体の復興計画策定等を支援。現在は家族4人で大船渡市内在住。

自治体

長友 弘子（ながとも ひろこ）
京都府商工労働観光部 地域力ビジネス課長（京都府ソーシャルビジネスセンター長）

京都府職員として、農林業、福祉、産業、労働、観光振興等の分野に携わった後、平成１９年度から人がつながる温かい地域社会の構築を目指す「地域力再生プロジェクト」を担当。平成２４年度から、ビジネス的な手法で地域力再生活動の自活継続を目指す「京都式ソーシャル・ビジネス＝京都地域力ビジネス（愛称:京都ちーびず）」推進のため、京都府ソーシャル・ビジネスセンター設置。センター長に就任。今年度からは課に昇格し、引き続き女性の目線で府民協働による実践チャレンジを中心に地域力ビジネスの推進を図っている。

大学・研究機関

大宮 登（おおみや のぼる）
高崎経済大学地域政策学部教授

1996年から高崎経済大学教授、現在に至る。近著は、『景観法と地域政策を考える』勁草書房（2014）、『実践キャリア考』実教出版（2013）等。地域活性学会会長、日本地域政策学会副会長、NPO法人Design Net-works Association代表顧問等。組織における実践的な能力開発や人材育成の在り方、キャリア形成に関して研究。併せて、その理論を地域活性化に応用し、大学を核とした地域活性化の理論と手法についても研究課題としている。

プログラム

14:30～
開会のご挨拶
ソーシャルデザイン推進会議拡大発起人会共同座長
松阪市長　山中光茂

14:35～
基調講演
神山町『創造的過疎』の地域づくり
～ソーシャルデザインの先進事例として～
NPO法人グリーンバレー理事長　大南信也様

14:55～
「ソーシャルデザイン推進会議」活動概要の説明
ソーシャルデザイン推進会議事務局長　丸尾哲也

15:10～
ソーシャルデザイン大会議　Part1
実践者の皆様によるパネルディスカッション

16:20～
ソーシャルデザイン大会議　Part2
行政の皆様が実践されている活動のご紹介

17:25～
終了のご挨拶

お問い合わせ「ソーシャルデザイン推進会議」事務局
NPO法人地域交流センター 丸尾哲也 〒101-0031東京都千代田区東神田1-7-10 KIビル3階 tel:03-5823-4190
株式会社電通 ソーシャル・ソリューション局 村越力 〒105-7001 東京都港区東新橋1-8-1 tel:03-6216-8462